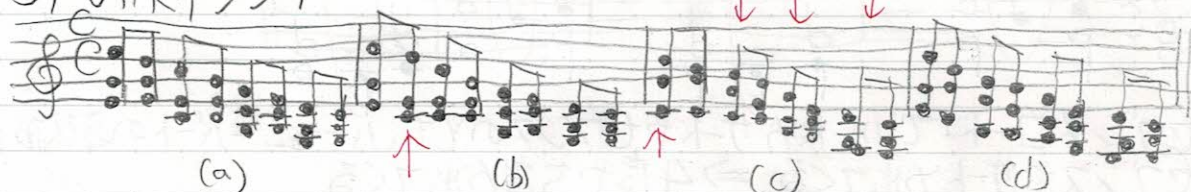


pp. 41~55

・3声のボーシング



3声である＝パート自体もトライアドになる。

⇒まずパート単体でコード進行の考慮が必要、
 その上で曲自体のコードとの干渉を考える

(a): トップの下にコードの構成音を付加

(b): ↑が不協和、解決もしていない

(c): ↑はサード省略になってしまっている、テンポ置い場合はNG

(d): 6度、他パート・コードとのハーモニーの状態に注意

・3声のコラス



女声の3部

—リードが高い→クローズ・ポジション

(1オクターブに収める)

—ポップスの声域→セカンドがXドティー

トップとサードがハーモニー

—Xドティーが低い→サードがXドティー

トップ・セカンドがハーモニー

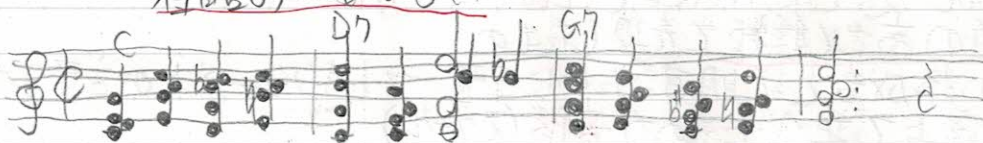
※ベースがなくなる伴奏に注意

※男声がいなくてもあるなら...
 全男声とかでなければ
 オープン・ポジションの
 アレンジが可能

26/8/15

・4声のボイシング

4声→セブンス・コードを各1パートごとに振り分けられる。
省略の必要がない



通常はシックス・セブンス/ナインスのどちらかを補う
トライアドのうち1音を重ねることもある

・アプローチ・アレンジ

アプローチ・ノート: コード・トーンの前にある非和声音
└ コード・トーンに対して短いこと
└ コード・トーンにしっかり合うこと

不協和なアプローチ→コードで解決と使う

・アプローチ→コードに下行で解決

・Xロディーを半音で動かして最後におちつける

・ディミニッシュ→通常セブンス

・ドミナント→通常セブンス

・オープン・ポジションのアレンジ法

4声のクロス・ポジション→音階が密集して響きが豊かにならない

↓
どれか1声部を1オクターブ下げることでオープン・ポジションとして
アレンジする。

下げる音の音高には注意

ロー・インターバル・リミットを下回ることがある。

・4声のコーラス

女声4声→低音不足、オープンするのも難しい

男声で1~2声ませた混声とするのが一般的

・ギター・ピアノのボイシング

ギター: もともと完全4度前提の調弦、配器さえ配慮すれば簡単

ピアノ: 両手でオープンにするのは簡単、クロスは物理的な困難があるので

避けたほうがいいかも、

コード理論とスケール理論

調性(トナリティ)と調(キー)

調性 音楽の中の音の高さに関する統一感を示すもの

この統一感を示す代表音を**主音**(トニック)という。

調 調性の高さの種類を表現したもの

調の構成音を説明するために主音 → 1オクターブ上の主音まで五線譜上で並べたものが**音階**(スケール)

長調と短調 (長音階と短音階)

長調 ざっくり言うと「ピアノの白鍵だけ弾いたとみに並ぶ音階

Cスケールのとも、

ディグリー	I	II	III	IV	V	VI	VII	I
音名	C	D	E	F	G	A	B	C
(間隔)		全	全	半	全	全	全	半

短調

C_mスケールのとも、**ハーモニックマイナー**は

ディグリー	I	II	III	IV	V	VI	VII	I
音名	C	D	E ^b	F	G	A ^b	B ^b	C
(間隔)		全	半	全	全	半	増2	全

ところで、短調のスケールには3種類あり、

ディグリー	I	II	III	IV	V	VI	VII	I
ナチュラル	C	D	E ^b	F	G	A ^b	B ^b	C
ハーモニック	C	D	E ^b	F	G	A ^b	B ^b	C
Xドディック	C	D	E ^b	F	G	A ^b	B ^b	C

{ ナチュラル → 長調のVIを主音として作り出したスケール

{ ハーモニック → ナチュラルのVIIを半音高めてIへの解決感を強めたスケール

{ XDディック → ハーモニックのVI ↔ VII間の増2度を避けるためにVIを半音上げたスケール

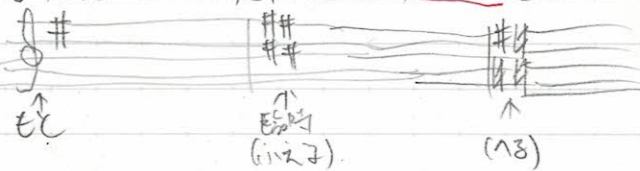
これら3つは同じ調号で書く、が臨時記号を加えて区別する。

・調号の規則性

主音がC (長調) / A (短調) であるとは限らず、
スケール上の音の変化を示すために、それぞれの音に# / b が必要。
← それを五線譜の左端にある音部記号にまとめて
書いたのが調号

・調号のなかり

調号は基本的に次に音部記号が出てくるまで有効、
または小節頭に臨時記号を書いて示す



臨時記号はその音以降の
その小節内でその高さについて有効

ややこしい場合は臨時記号に括弧 () をつけて、
「これはもう効力があるが確認のため」という意味で付加する

2音がタイでまたがれ、その1音目に臨時記号がついて
小節を超えた場合は超えた後も効力がつづく

・異名同音：楽譜上では記法が違うのに鳴らすと同周波数となる音
F# と G^b、A# と B^b はたとえば同音。
⇒ 理論上はあくまで別物で、区別される
一般に調号に# がついたら# での記法が、
b がついたらb での記法がたえる確率が高い。